

■伊藤野枝 婦人運動家。大杉栄とともに虐殺される短い生涯に、3度結婚し7人の子、多くの評論・翻訳を残した。

いとうのえ

日清戦争終・1895＝ 福岡県糸島郡今宿村で、江戸時代末の曾祖父の代までは回漕問屋をしていたが、祖父の代に傾き、農産物加工で失敗した貧しい瓦職人の家の6人兄弟の3番目に生まれた。

道楽者で歌舞音曲を好み酒飲みの父のもと、男のような気性に育ち、

日露戦争始・1904＝ 9歳：

日露戦争終・1905＝10歳：

__小学校卒業後、郵便局に勤めたが、9ヶ月で辞め、

韓国併合・・1910＝15歳：叔父を頼って上京、__猛烈な受験勉強をして、上野高等女学校に編入学、親類の援助を受けて、

大逆事件判決1911＝16歳：__郷里の人と結婚させられたが、女学校は続け、

明治天皇没・1912＝17歳：*同校の英語教師辻潤と同棲し始め、全課目首席で卒業後、出奔し、結婚する。辻潤は女学校を追われた。

大正政変・・1913＝18歳：*「新しき女の道」を発表し、ゴールドマン、エレン＝ケイ著「婦人解放の悲劇」を訳すなど著作活動で中心的

執筆者となり、「新しい女」の一人となった。

21ヶ条要求・1915＝20歳：__({青踏})を引き継いで主宰するうち、アナーキストで10年上の大杉栄に近づいて、その信条に共鳴し、

民本主義・・1916＝21歳：*夫と2児を捨て、世間の非難や、日蔭茶屋事件などをこえて、同棲、以後、5女を産みつづけながら、

ロシア革命・1917＝22歳：__({文明批評})、

本格政党内閣1918＝23歳：__({労働運動})などを共に編集し、

原敬首相暗殺1921＝26歳：__赤濁会の結成に加わったりしたが、官憲の憎むところとなり、

水平社結成・1922＝27歳：

関東大震災・1923＝28歳：*関東大震災直後、甥の少年と大杉とともに憲兵大尉甘粕正彦に虐殺された<甘粕事件>。

短い生涯で3度結婚し7人の子を産み、多くの評論、翻訳などを残した。